

頭と足

平林初之輔

青空文庫

船が港へ近づくとつれて、船の中で起った先刻の悲劇よりも何よりも、新聞記者である里村さとむらの心を支配したのは、如何にしてこの事件をいち早く本社に報道するかという職業意識であつた。

彼は、社へ発送すべき電文の原稿はもうしたためている。しかし、同じ船の中に、自分の社とふだんから競争の地位にたつてゐるA新聞の記者田中たなかがちやんと乗りあわせて、矢張り電文の原稿は書いてしまつて現に自分のそばに、何げない様子をして自分と話をしている。その様子は如何にも自信に満ちた様子である。港には郵便局は一つしかない、従つて送信機も一つしかない勘定だ。どちらかさきに郵便局へ着いた方がそれを何分間でも何時間でも独占できるのだ。郵便局は波止場から十町もはなれてゐるといふ。して見れば体力のすぐれている田中がさきにゆきつくことは必定だ。

里村は気が気でなかつた、波止場はすでに向うに見えている。彼はいても立つてもいられなかつた。ことに、自分の体力に信頼しきつて悠然とかまえてゐる田中のそばにゐるの

がもう辛棒できなかつた。彼はふらふらとデッキのベンチをたち上つて船室へ降りていった。

田中は安心しきつていた。彼は靴のひもを結びなおし、腰のバンドをしらべ、帽子を眉^ま深^{ぶか}にかぶり直し、万が一にも手ぬかりのないように、いざといたらすぐに駈けだすことのできるように用意していた。三四分もたつと里村が船室にもいたたまらぬと見えて、矢張り浮かぬ顔付をしてデッキへ上つて来た。競争が切迫するにつれて二人は緊張しきつてもう一言もものを言わなかつた。

二

船はいよいよ波止場へついた。人夫が船を岩壁へひきよせる間も、デッキから波止場へ厚い板でブリッジがかけられる間も二人は、気が気でなかつた。

やがて船客は降船しはじめた。田中は第一に船を降りて、韋駄天^{いだてん}のように駈け出した。里村はそれにつづいた。

田中が郵便局へ息を切らしてついた時には生憎^{あいにく}く、町の労働者風の男が、電報取扱口へ、

十枚ばかりの頼信紙を出しているところであつた。その男は、何か不幸な事件でもあつたと見えて、あとからあとからと頼信紙へ同文の電文をつけている様子だつた。

田中は、まだかまだかと督とくそく促してもどかしがつた。

「親戚に急な不幸がありましてな」件くだんの労働者は気の毒そうに田中にわびた。

里村がそこへ息せききつてかけつけた。

二人はものの四十分もまちぼうけをくつた。里村はもうあきらめられているらしかつたが、田中はしきりに時計を出して見て、「ちえつ」夕刊の締切に間にあわん。としきりに舌打ちした。

やつとのことで労働者は二人に恐縮そうにお叩頭じぎして出ていった。

田中は入れかわつて電報取扱口にたつた。

里村は田中の原稿を見て、「たつぷり二十分はかかるね」ともうあきらめながら言つた。「一寸その間に用たしをして来るよ、どうせ僕の方は夕刊にまにあいつこはないのだから」と云いながら彼は出ていった。

道の二町もいった頃彼はさっきの労働者にあつた。

「どうも有り難あがとう、お蔭で僕の方は夕刊にまにあつた、これは少しだが」

彼は十円札をつつんでわたした。

「どうも相すみません」まださっきのつりものこつておりますが、あなたの電報の分が至急報で五円三十銭と、それにわつちやあ、親類じゆうへ合計十三本も用もない電報をうちましたぜ」

「そりやどうも有り難う、おかげであの男の方は夕刊に間にあいつこなしだ、なにつりはとつときたまえ」

× × × × ×

「要するにあの場合、船から一番先きに降りるものは誰かつてことに気がついたのは吾ながら感心だて、船員のうちには必ず船客より先へ降りる者があるつてことに気がつくなご頭のいいもんだなあ。お蔭で来月あたりは昇給かな。田中の奴、おれが息せききつてかけつけたと思つてゐるが、豈計らんや、俺は、煙草をふかしながら見物のつもりでやって来たのだ。あんまり気の毒だから局の前でちよつと駄足のまねをして見たがね。気の毒といえ、このことをすぐに奴に知らせるのもあんまり気の毒すぎるから、一つあいつの女房のところへでも電報を打つて俺の頭のよさを自慢してやろうかな」

里村は途々みちみちひとり考えて悦に入つた。

(一九二六年二月号)

青空文庫情報

底本：「探偵趣味」傑作選 幻の探偵雑誌② 光文社文庫、光文社

2000（平成12）年4月20日初版印刷発行

初出：「探偵趣味」

1926（大正15）年2月号

入力：鈴木厚司

校正：土屋隆

2004年12月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

頭と足

平林初之輔

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>